



学校だより

平成28年 4月28日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.457

朝茶は七里帰っても飲め

校長 谷田 弘子

4月14日から始まっている「九州の地震（熊本地震）」は今だに余震が収まらず、大変な生活を余儀なくされている方が多くいらっしゃいます。早く余震が収まり、早急な復興が進むように心から祈っております。本校の5年生の中に、「何かできることがないか？」と考えた児童がいます。今後、代表委員会を中心に活動が進められることでしょう。

新学期が始まって、3週間が経ちました。1年生も学校に慣れ、元気に生活しています。川島栄養士に伺ったところ、今年の1年生は、給食をよく食べるそうです。廊下で会った1年生の児童が、「給食がおいしい。たくさんおかわりをしちゃった。」と話していました。これからも、好き嫌いせずにもりもり食べて、元気に過ごしてほしいと思います。

さて、みなさんは、朝にお茶を飲んでいますか。私の子供の頃、食事の時には、お茶が付きものでした。もちろん今でも、毎日お茶を飲んでます。

お茶は鎌倉時代、臨済宗の祖、栄西が中国から持ち帰ったもので、初めは薬として用いられていました。今では、緑茶には、ビタミンCのほか、カリウム、カテキンなどが含まれ、血圧の上昇を抑える効果があるなど、健康によいことが知られています。そんな詳しいことがわからなかった昔に、こんなことわざがあったのです。「朝茶は七里帰っても飲め」です。朝のお茶はその日の災難をよけると言われるところから、飲み忘れて出かけたなら、どんなに遠くまで行こうが、戻って飲めということです。七里は約28kmです。とっても遠いところのたとえでしょう。「一里」は徒歩で約1時間ですから、七里は7時間歩いた距離です。「朝茶を飲み忘れた。さあ戻らねば」と思ったら、もうお昼を過ぎてしま

います。そのくらい、大切なものだということとえです。同じような意味のことわざに、

「朝茶はその日の難逃れ」というものもあります。朝茶を飲むと、その日の災難を逃れることができるという意味です。ことわざ大辞典で調べてみると、「朝の茶に縁起をかついで言う言葉。朝茶はその日の祈祷。」と書かれていました。どうか今日も無事な一日を過ごせますようにという、お祈りだということです。朝茶を飲んだおかげで、難を逃れたという昔話は各地にあるそうです。「朝茶は二杯飲め」とも言われるそうです。このことで、子供の頃を思い出しました。朝食のお茶を一杯飲んで、ごちそうさまをしたら、明治生まれの祖母に「一杯では縁起が悪いから、二杯飲みなさい。」と叱られたのです。『お茶だけ二杯飲むのは嫌だな、縁起なんか悪くないよ。』と心の中で思いましたが、祖母がきつく言うので、しぶしぶ二杯飲んだのを思い出しました。

みなさんは、このような縁起を信じますか。私は大人になって、お茶をゆっくり味わうよさを知ってから、縁起というのは、昔の人の知恵ではないかと感じるようになりました。朝茶をしっかりと飲むということは、心にゆとりがある証拠です。また、健康によいお茶は、その日の体調を守ってくれます。災難は思いがけないときにやってきます。その災難を避けるには、瞬時の判断力と行動力が必要です。そのためには心のゆとりと健康が支えです。その代表が朝茶を飲む行為なのです。これを昔の人は「縁起がよい、悪い」に置き換えて、人々を納得させ、代々言い継いでいったのです。このことわざを覚えて、呟きながら、お茶を飲んだり、朝食をとったり、朝から落ち着いた生活を心がけてほしいと願っています。